

オーストラリアでマレーバレー脳炎の注意喚起

2011年2月23日 ProMED 情報(The age)



ビクトリア Victoria 州保健当局は、過去 37 年間同州で患者発生がなかったマレーバレー脳炎(以下、MVE)発生の危険があるとして、蚊に刺されないよう住民に注意を促しています。同州保健担当者によると、今週、同州北部において、MVE 発生の危険性を早期に探知するために実施している“sentinel chicken”と呼ばれるニワトリを用いた検知システムで、MVE ウイルス感染が検出されたとのこと。

ニワトリの MVE ウイルス感染が本システムで検出されたのは、1974 年の同州でのヒトでの MVE 流行後、本検知システムが設置されて以来 2 回目です。1974 年の流行以降は、同州では患者は発生していません。今週、ニューサウスウェールズ New South Wales 州との州境沿いのミルラダ Mildura、ロビンバール Robinvale、ケラング Kerang、バーマー Barmah、トウリーバック Tooleybuc においてニワトリの MVE ウイルス感染が検出されました。マレー川沿いの住民は蚊に刺されないよう注意すべきです。

[ProMED 調整者]

オーストラリアでの VE 患者は、最近では 2009 年にビクトリア州から離れた西オーストラリア Western Australia 州とノーザンテリトリー The Northern Territory で発生しています。ビクトリア州において 37 年間患者発生がないにもかかわらず、MVE ウイルスを監視するために積極的な鳥の監視が続けられていることは注目に値します。

ビクトリア州、特にマレー川沿いの最近の大雨と洪水は、蚊の繁殖場所の著しい増加をもたらしています。MVE ウイルスはイエカの 1 種である *Culex annulirostris* によって伝播され、日没後 1~2 時間が刺されやすい時間帯です。ウイルスの感染を予防するためのワクチンはなく、蚊に刺されないようにするのが唯一の実際的な感染予防法です。

厚生労働省 福岡検疫所